

# 文教くらし委員会質疑より

奈良県議会では申し合わせにより、ざっくりですが基本的に一般質問は1人につき年1回となっており、市議会では定例議会ごとに一般質問をしていたので発言の機会が大きく減ることとなってしまいました。ですが、それを嘆いていても仕方がないのでその分常任委員会での質疑に力を入れていきたいと思っております！

各常任委員会においては「その他質疑」という項目の時に、出された議案や報告事項などとは全然別の内容について、委員会の所管する事項であれば質疑をして提言を行ったりできます。要は分野は限られるが一般質問と同じようなことができるわけです。ちなみに、細かい運用は違いますが市議会でも所管質疑という名前で同じことをすることができます。以下、6月29日の文教くらし委員会で私が行った質疑の抜粋です。



国際中学校が国際バカロレア（IB）の候補校として令和5年4月に開校した。年間スケジュールを見ると一般的には定期テストが実施される時期に個人探求週間と記載されているが、この内容も含めて、市町村立の中学校との教育課程（カリキュラム）の違いについて教えてください。

言語と文学、個人と社会など8つの学習領域があるが、内容は学習指導要領と大きく相違なく、同じ検定教科書を使用している。主な特色としては英語の教科について、英語を母語とする教員等による少人数、習熟度別の授業をしている。個人探求週間にはフィールドワークを行ったり、ゲストティーチャーを招いてアクティブラーニングを実施し、主体的、探究的な学びを推進している。



国際中学校、高等学校では定期テストを実施しておらず各教科の单元ごとに单元テストを実施。もう一つの県立の中高一貫校である青翔中学校、高等学校でも中間テストの代わりに单元テストを行い、期末テストのみ実施しており、それ以外の県立高校でも单元テストを実施しているところがあると聞いている。单元テストはどういった趣旨で導入されているのか。

定期テストは直前期だけの学習を誘発したり、つめこみ、暗記になりがちである。单元ごとにテストをすることで自身の習得度合いの把握や振り返りがしやすいと考えており、現場の先生からも生徒のつまづきが発見しやすいという声があがっている。また、生徒の成績についてはペーパーテストだけでなくレポートやグループディスカッションなど多面的に評価をするようにしている。



南部・東部地域での読解力向上プロジェクトについて、経年で効果測定ができるよう、まずは今の子どもたちの読解力を測定し、現状にあったレベルでの読解力向上の取組を進める必要があると思うが、教育長の考えは。

今の子どもたちは飛ばし読みをする傾向があるとされており、まずはしっかりと読書ができるようにする。そして今年の10月から12月にかけてリーディングスキルテストを実施し、その結果を基に現状に合った読解力の向上施策を実施したい。



■まとめ 单元テストについてはさらなる知識定着に向けての提言を行いました。読解力向上については学力向上のためにも重要なので引き続き進捗を追いかけます！